

この1年で学んだこと

活動先：NPO 法人 ネットワーク大府

1. 自分の成長と気づき

私は1年間サービスマーケティングの活動を行ってきて、実践的な福祉の活動を体験し、学んできた。私はこれまで福祉の施設に行き、ボランティア活動など福祉活動の経験が乏しく、各々の施設ではどのようなことをしているかなど知らなかった。全くわからないので、講義を聞いていても想像がつかなく、話しを聞いて自分でこんなものなのか、と考えるばかりだった。

いざ、サービスマーケティングの活動を行ってみて、講義と実践は全く異なっており、驚いた。講義で話しを聞いていて福祉のことはある程度わかっているつもりだったが、実際に活動に出てみると何をしてもよいかかわからず、ただただぼーっとしてしまった。

1日目は職員さんに言われたことしかできず、指示待ち状態になってしまい、2日目からは利用者さんに話しかけ会話もうまくできるようになったと思う。どのように利用者さんに話しかけに行き、会話すればよいのかかわかったが、ただ日常の会話をしているだけで、何かをしようとする時、うまく誘えず、困ってしまった。職員さんは利用者さんのやる気や興味を持たせるように言葉を選んで話して誘っており、さすがだなと思った。利用者さんとのコミュニケーションはたくさんとれたが、1日中利用者さんのそばに付き添って行動していたので、職員さんとはあまり話せず、コミュニケーション不足になってしまったと思う。今思えば、もっと職員さんと会話し、なぜこの職についたか、仕事をしていて困ったことなど、様々なことを聞けば自分のためになったと思う。職員さんや施設の方とのコミュニケーション不足から、連絡不足に繋がり、ネットワーク大府さんと連携がうまくとれなかったのではないかと私は思う。連絡不足により、私たちが提案した計画をやらせてもらえるのを当日まで知らず、何も準備しないまま活動に参加してしまい、職員さんが材料などを買ってきて準備してもらおう形になってしまった。利用者さんや職員さんなど様々な人たちに迷惑をかけてしまったので、当日の流れを再度、事前に確認しておくべきだと思った。

一つ一つの経験から学んだことは多く、あの時こうすればよかったなど後悔や反省ができ、より良くするためにはどうすればいいかなどを事後の活動記録に記すことで一日の振り返りもでき、文章をまとめる力が少しはついたと思う。毎回、活動記録をつけることで新たな発見ができ、次に繋がると思う。これは、利用者さんの状況を毎日記録することと同様であり、日々の行動記録をつけることにより、そこから読み取れる性格、心情などを理解・把握し、利用者さんの情報を職員同士で共有する役目を担っているのではないかと考えた。なので、記録をつけることは大事なことだと思った。

ネットワーク大府さんでは6日間活動させてもらったが、他の活動先みたいに一つの場

所で活動するのではなく、6日間とも別の種類の施設で活動させてもらえ、それぞれのサービス内容や対象者、各施設の雰囲気などを知ることができた。また、施設を比較でき、各施設の特徴や違いがわかった。

様々な施設で活動できたので、自分に合った仕事を見つけられた。

私はこのサービ斯拉ーニングの活動を通し、様々な福祉活動の経験や研究ができ、幅広い福祉をみることができた。まとめや発表などは大変だったが、私にとってこのゼミはたくさんの方が体験できたのでゼミの内容はとても良かったと思う。

2. この活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

6日間の活動では毎日の活動が精一杯で、地域の活動やネットワーク大府さんと地域の連帯などには目を向けられず、地域課題や社会課題を考えることができなかった。

私はグループ研究で「居場所」について調べて、現社会では居場所の必要性がわかり、居場所づくりが社会課題ではないかと思った。誰もが自由に参加でき、自分を生かしながら過ごせる場・交流の場は今の社会には少なく、それぞれが孤立していると思う。悩みなど誰にも相談できず、鬱や閉じこもりになってしまう人は少なくない。そんな時、身近で気軽に立ち寄ることができる場があれば、そのような人たちも減り、住み良い町になると思う。また、地域の福祉力も高まり、福祉に携わる人も増えると思う。

現在では介護保険サービスだけでは地域社会での生活を続けるのは困難であり、制度の隙間を埋めるための地域福祉サービスが必要となってきている。また、家にいても相手にされず、話し相手が欲しいなど些細な理由から施設に入る人もいる。そのような時こそ地域において誰もが気軽に立ち寄れる居場所があれば、生活上の悩み事・心配ごとを早期に対応でき、地域全体の問題として取り組むことができると思うので居場所づくりが社会課題だと思う。